

高等学校第 2 学年 フードデザイン学習指導案

題材名 フードデザイン「食をとりまく現状」（実教出版 フードデザイン新訂版）
学習指導要領 内容(1) 健康と食生活

1 題材について

食の安全性への不安や栄養素の過剰摂取による健康危害など食における問題が多様化している中、根底にあるのは食料自給率の低さだと言われている。政府は、2010 年度に食料自給率を 50%とする目標を設定したが、実現の可能性を考慮し、2015 年度に 2025 年度の目標を 45%と下方修正した。また、近年は「食料自給力」を打ち出し、輸入に頼らず国内の全ての農地を活用した場合に最大どれだけの食料生産が可能かを試算している。高等学校学習指導要領解説家庭編では、食を取り巻く現状について、健康、栄養状態、食料事情、食の安全及び環境との関わりなどの視点で把握させることと示している。特に、食料事情については、食料自給率や食のグローバル化などとも関連させて扱い、食の安全や地球環境に配慮した食の在り方を考えさせるように示している。食料自給率の低下には、消費者の食品選択の在り方が大きく影響しているが、消費者は食品を選ぶ基準として産地や原料などを重視して選択しているとは言い難い。

本題材は、様々な視点から我が国の食生活の現状について把握させ、課題意識をもたせることをねらいとしている。そのために、事前の食事調査を基に食料自給率について考えさせ、消費者としての食品選択の在り方が今後の日本の食料事情、ひいては自分の食生活に大きな影響を及ぼすことに気付かせる。そこから、自分の食生活を見つめ、課題意識をもつ態度を身に付けさせることが必要であると考える。

指導に当たっては、課題設定時に事前の食事調査を行うことで、食料自給率の低さを身近な問題として捉えさせる。その際、生徒間での交流活動を取り入れ、互いに多様な考えに触れさせたい。それにより、自分の食生活に置き換え、食品選択に着眼した実践可能な手段を見付けることを通して、主体的な消費行動につながられるように考えを深めさせたい。

2 題材の目標

食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全と環境との関わりなどの視点から、食を取り巻く現状と課題について理解し、自らの消費行動が食生活や社会に与える影響について考え、消費者として主体的、総合的な視点で食生活を工夫できるようにする。

3 題材における食育の視点

- ・生徒自身の食生活の実態から、食料自給率と関連した問題点を見いださせ、消費行動が食料自給率に与える影響について主体的に考えさせる。 【食品を選択する能力】
- ・持続可能な食生活の在り方について解決方法を見いださせ、実践可能かを検討するなど食生活を総合的に考え、適切な判断の基に食品を購入しようとする態度を養う。 【食品を選択する能力】

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活、消費行動を振り返り、持続可能な食生活を目指し、自分たちができることに関心を持ち取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活を振り返り、生活習慣病予防につながる手立てを考えている。 自分の消費行動が食料自給率に与える影響に気付き、持続可能な食生活の実現を目指して、主体的、総合的な視点で食品選択の方法を検討し表現している。 持続可能な食生活や消費行動の在り方について、課題を見いだし、その解決に向けて思考を深め、適切な消費行動について考えている。 	/	<ul style="list-style-type: none"> 現代の偏った栄養摂取から生活習慣病・その予備軍の増加との関連を理解している。

5 指導と評価の計画（3時間）

題材の指導計画 題材名 「フードデザイン『食をとりまく現状』」

- ① ライフスタイルの変化に伴う栄養摂取の変化と生活習慣病 1時間
- ② 食料自給率を考慮した食品選択 1時間（本時）
- ③ 食生活と環境 1時間

	【ねらい】・◆学習活動	評価の観点				◇評価規準（評価方法）
		関	思	技	知	
① (1時間)	ライフスタイルの変化に伴う栄養摂取の変化と生活習慣病（1時間） 【ねらい】 多様な食形態に応じた適切な栄養摂取の必要性を理解し、生活習慣病の予防につながる手立てを考える。					
	◆食形態の多様化に伴う栄養摂取の変化を捉え、適切な栄養摂取の必要性を理解する。 ◆食生活と生活習慣病が関係していることを再認識し、予防する手立てを見いだす。	●	●	●	●	◇現代の偏った栄養摂取から生活習慣病・その予備軍の増加との関連を理解している。 （ワークシート） ◇自分の食生活を振り返り生活習慣病予防につながる手立てを考えている。 （ワークシート、観察）
② (1時間) 本時	食料自給率を考慮した食品選択（1時間） 【ねらい】 持続可能な食生活のためにどのような視点で食品を選べばよいだろうか。食料自給率の問題から考える。					
	◆食品選択により食料自給率の向上・維持が図れる手立てを考え、自分の食生活に置き換え、実践可能な手立てを整理、検討する。	●	●	●	●	◇自分の消費行動が食料自給率に与える影響に気付き、持続可能な食生活の実現を目指して、主体的、総合的な視点で食品選択の方法を検討し表現している。 （ワークシート、観察）

③ (1時間)	食生活と環境（1時間） 【ねらい】 自分の食生活が社会や環境に与える影響について理解し、持続可能な食生活について考える。		
	<p>◆食品ロスなどの問題が、身近な食生活や消費行動と関係していることに気づき、社会や環境に配慮した消費行動について考える。</p> <p>◆自分の食生活、消費行動を振り返り、持続可能な食生活を目指して、自分ができることをまとめる。</p>	●	<p>◇持続可能な食生活や消費行動の在り方について課題を見だし、その解決に向けて思考を深め、適切な消費行動について考えている。（ワークシート）</p> <p>◇自分の食生活、消費行動を振り返り、持続可能な食生活を目指し、自分たちができることに興味をもち取り組もうとしている。（ワークシート）</p>

6 本時の目標

自分の消費行動が食料自給率に与える影響に気づき、持続可能な食生活の実現を目指して、主体的、総合的な視点で食品選択の方法を検討し表現している。 【思考・判断・表現】

7 本時の展開

過程	学習活動	形態	指導上の留意点（○）と評価規準（◇）評価の観点【】
導入	1 本時の学習課題を把握する。	斉	<p>○事前に行った1週間分の食事調査を基に、食べている食材の産地を考えさせる。</p> <p>○本時の内容を説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">持続可能な食生活のためにどのような視点で食品を選べばよいだろうか。食料自給率の問題から考えよう。</p> </div>
展開	2 食料自給率について考える。	斉	<p>○食料自給率に関する既習事項について生徒に問う。</p> <p>○食品の選択が日本の第一次産業に大きな影響を与えていることに気付かせるために、食事調査を用いる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・調査の結果、パンを食べている生徒が圧倒的に多い。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・パンの原料は？→小麦</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・小麦の産地は？→日本の自給率</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・外国産小麦使用のパンを買うことは、輸入を増加させる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・国内の米や小麦の生産が減る。</p> </div> <p>○消費行動と食料自給率の関係性について、生徒に問いながら説明する。</p>
	3 日本の食料自給率の低さから生じる問題点を探る。	斉	<p>○食料自給率と関連した問題点を自分のこととして捉えさせるために、食料輸入が途絶えた場合の食生活を取り上げる。</p> <p>○健康、栄養、安全性、環境等の視点で考えるように促す。</p>
	4 食品選択により食料自給率向上につながる手立てを考える。	個 ↓ G	<p>○食料自給率を維持・向上させるためにできることについて、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築等の視点で考えさせる。</p> <p>○意見を整理させるために、付箋を活用する。</p>

		↓ 齊	○持続可能な食生活について補足説明する。 ○参考としてFOOD ACTION NIPPONの「食料自給率向上のための5つのアクション」を紹介する。
5	事前の食事調査を基に、自分が実践できることを検討し、まとめる。	個	○食事調査を活用することで、グループで考えた手立てが自分の食生活において実践可能か検討させ、まとめられるようにする。 ◇自分の消費行動が食料自給率に与える影響に気付き、持続可能な食生活の実現を目指して、主体的、総合的な視点で食品選択の方法を検討し表現している。 【思考・判断・表現】
6	食料自給率向上の重要性を確認する。	齊	○食料自給率を上げることが食料に関する安全保障にもつながることを伝える。
7	次時の学習課題を確認する。		○食生活と環境の関係から持続可能な食生活について考えることを伝える。

8 本時の評価

評価規準	自分の消費行動が食料自給率に与える影響に気付き、持続可能な食生活の実現を目指して、主体的、総合的な視点で食品選択の方法を検討し表現している。 【思考・判断・表現】		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	食料自給率の問題と自分の消費行動とを関連付けて、複数の視点で食品選択の方法を検討し表現している。	食料自給率の問題と自分の消費行動とを関連付けて、1つの視点で食品選択の方法を検討し表現している。	(B)に達していない状況
→(B)、(C)と判断した生徒への支援		→自分の食事調査と比較するように促し、他の視点でも考察できるように支援する。	→自分の食事調査とグループから出た意見を整理し、検討するよう支援する。
評価方法	ワークシートへの記述、発言の内容		